

“夢中になる”をあなたも体験

小口真澄
(英語芸術学校マーブルズ代表)

発表者小口真澄は、英語芸術学校マーブルズを主宰しながら、これまで20年以上にわたり全国各地で幼児から大人までを対象に様々な演劇ワークショップを行ってきました。マーブルズでは、劇を通して、「①他人任せにならない自分、②瞬時に状況を判断して、臨機応変に問題処理する能力、③自分一人じゃない、みんなで一つのものをつくりあげていくんだという連帯感を育てます。そして、こども達は、自分本位でなく、劇のもつメッセージを観客に誠意を持って伝えようとします。また、一生懸命なものは必ず相手に伝わる、ということを経験として学びます。社会に出て、一人の人間として生きていく時に大切なものが、全て劇の中に含まれている」と考えています。つまり、ドラマを通じて言語だけでなく、総合的な人間力の育成をも目指し指導しています。

日本ではまだ馴染みのない演劇教育ですが、先行研究では、ESL/EFL クラスにおいて、

- ・語彙の定着を促進すること
- ・パブリックスピーキング力やプレゼンテーションスキルを培うこと
- ・コミュニケーション能力を上げること、

に有効であると報告されています。また、コミュニケーションには不可欠な非言語的要素や、自己肯定感といったような動機づけ研究にも有効であると言われていています。

今回は、劇作りの手法の1つ、“Creative Dramatics”を通して、マーブルズのコンセプトである「夢中になるから英語が話せる」を経験していただくことにより、演劇を教育現場に取り入れていく意義を一緒に確認したいと思います。

参考文献

- S. Demirecioglu (2010) “Teaching English vocabulary to young learners vis drama”, *Procedia Social and Behavioral Sciences* 2, pp. 439-443
- S. Stern (1983) “Why Drama Works: A Psycholinguistic Perspective”, *Methods that work*, pp.207-225
- T. Toivanen, et (2011), “Drama education and improvisation as a resource of teacher student’s creativity”, *Procedia Social and Behavioral Science* 12, pp.60-69
- 平田オリザ、蓮行(2009)『コミュニケーション力を引き出す：演劇ワークショップのすすめ』、PHP 新書
- 平田オリザ(2010)「演劇はコミュニケーション教育に有効か？：コミュニケーションデザイン・センターにおける演劇教育」, *Osaka University Knowledge Archive, Osaka*

英語芸術学校マーブルズ (<http://marbles1008.net/>)